

## 野口みずき氏による講演会（平成30年12月13日）



12月13日（木）、中京区の市立朱雀第一小学校において、「ほんまもんに出会おう」学習として、「あきらめない心」をテーマに野口みずき氏による講演会が開催されました。

講演会は、三条会商店街で練習されていた野口氏を現役時代から応援してこられた同商店街の方々と校長先生を交えた鼎談方式で行われ、全校生徒と保護者の約500人が参加されました。

冒頭で金メダルを獲得したアテネオリンピックのレースの映像が流れ、野口氏御自身からレース中に感じていたことの解説もあり、「最後の競技場を走っている時は本当に気持ち良く、ゴールするのがもったいなくて、もっとこのまま走りたい気持ちだった」とのお話もありました。

その後の鼎談では、野口氏は小学生の頃、走るの大好きだったが陸上競技をすることは考えておらず、当時はヘアメイクアーティストになるのが夢だったことや、中学校の部活で陸上競技を始めたのは親友に誘われたのがきっかけだったことなどを話されました。

競技生活では、練習をつらいと思ったことはないが、監督やコーチから厳しく指導されてつらい時もあった、ただ今思えばその支えはとてもありがたかったし、表彰式で君が代が流れて国旗が掲揚され、金メダルを首にかけてもらったときは「みんなで目指してきた目標が達成できた」という思いで涙が溢れてきたというお話が印象的でした。

また、「アテネのゴールの時の気持ち良さをもう一度大舞台で味わいたい」「次は記録に挑戦したい」という思いで北京オリンピックを目指したが2大会連続という大変なプレッシャーがあったこと、二段抜かしで無理をし大会直前に大きなケガをして出場できなかったということもあったが、その後も陸上を続けてこられたのは応援してくれた皆さんのおかげであり、「私にとって地元の応援が金メダル」という感謝の気持ちを話されました。

最後に、子どもたちに伝えたいこととして、「人生はゴールするまで『夢だらけ』であり、成長する中で出会う人、経験することで夢は変わってくる。目の前の階段を一段一段登ってゆけばやがて大きな目標につながる。皆さん一人ひとりの大きなキャンバスに色んな色をつけて自分の絵を描けるように頑張ってほしい」と締めくくられました。